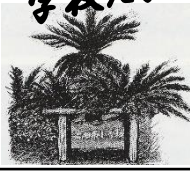


学校だより



「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」

# リテツのお 夏休み号

令和3年7月20日

横浜市立高田東小学校

## チャレンジする機会に

校長 小田 和宏

ずっと梅雨空が続いていましたが、先週の晴れ間が出たタイミングで、4・5・6年生の水泳学習を行うことができました。子どもたちは、感染防止のために、友だちとの距離やマスクをとったら話をしてはいけないといった約束をしっかりと守り取り組んでいました。

明日から夏休みに入ります。今年度は、夏休みの自由研究も課題として出しています。「自分の興味をもったこと」、「学習した内容からもっと調べたいと思ったこと」、「実験して確かめたいこと」、「行った場所について調べる」、「体験記をまとめる」、「工作に挑戦する」、「絵画に取り組む」、「読書感想文を書く」など、自分に合ったものを選んで挑戦してほしいと思っています。

自由研究の目的は、「総合的な学習の時間」のねらいと重なるところがあります。「自ら課題を見つけ、情報を収集し、それを整理・分析したり、知識や技能に結びつけたりして問題解決に取り組み、考えや意見をまとめ、表現する。」という探究的な学習の過程を通して、身に付ける力があります。もちろん、探究的なプロセスばかりが目的ではなく、好きなことに夢中になって取り組む、計画を立てる、取り組んだきっかけを大切に、試行錯誤する、完成した達成感を味わうなど、その意義はたくさんあります。成果だけでなく取り組む過程に大きな意味があると思います。

そのねらいの中で、学校で行う学習と違っているのは、「協働的な学習」にはならないということです。学校では、グループで協力したり、作業を分担したりして進めることもありますが、自由研究では自分の力で進めることになります。これは、一人で進める難しさはありますが、自分自身の力を高める絶好の機会になります。グループで取り組む場合、自分では担わないこともあるかもしれません。自分の思いと違う意見がある場合、合意形成が必要になります。しかし、個で取り組む場合は、自分の力が頼りな分、自分で活動を決定することができます。

時には、子どもたちのアイデアが実現困難な課題であったり、軌道修正の必要な場合だったりすることもあるかと思っています。そういう時には、ぜひ子どもたちの相談役になってください。それは、やってあげるということではなく、子どもたちの思いを後押しし、調べるためのアイデアや、何を見たと参考になりそうかのアドバイスなど、子どもたちの力を引き出す力添えをいただければと思います。

いよいよオリンピックが23日から開催されます。パラリンピックは8月24日の開会です。

コロナ禍での開催になり、さまざまな対策が必要ではありますが、子どもたちにはぜひ、オリンピック・パラリンピックが日本で行われるというこの機会に、いろいろな競技に関心をもってほしいと思います。また、「共に支え合って生きる社会」「国際感覚」「日本の文化や多様な文化」など、オリンピック・パラリンピックを通して感じることを大切にしてほしいと思っています。

8・9月の生活目標 みんなで力を合わせよう

8・9月の保健目標 規則正しい生活をしよう



## 高田中ブロック横浜子ども会議

「横浜子ども会議」では子どもたちが自分とまわりの人や社会との関係を見つめ、主体的な具体的な取組を行う姿をめざします。「いじめ」は

すべての子どもたちが被害者にも加害者にもなりうる身近な問題です。この取組を通して「いじめ」は絶対に許されないという気持ちで、互いを認め合えられれば安心して生活ができる子ども社会を作ろうとする横浜の子どもを育みます。

7月7日（水）、高田中学校ブロック（高田中・高田小・高田東小）で子ども会議が行われました。本校からは、児童運営委員会委員長の佐々木さんと副委員長の眞尾さんが参加しました。

「だれにとっても居心地のいい学校づくりをするためには、コミュニケーションがとても大切だと思います。その初めの一步として、お互いを知ることができるといいと考え、自己紹介カードを作って掲示する計画を立てています。」

二人の会議での話しぶりは堂々としたものでした。互いの学校の取組から中学校ブロック全体で取り組めるものはないかと考えました。それぞれの学校の取組の良さを確認したり、詳しい内容を質問したりしながら、3校で取り組む活動として「自己紹介カード」が採用されました。どんなカードにするか、そのカードをどうやって他校に届けるかなど、もっと内容を詰めていく必要があります。それぞれ持ち帰って、詳細を決めていくことで会議は終了しました。

「自分たちが考えた企画が、採用されるってとても気持ちいいな。」

佐々木さんも眞尾さんも大きな達成感を味わえたようです。二人の「学校をより良くしたい」という強い気持ちに大きな感動を覚えました。

この横浜子ども会議は、8月31日に港北区全体で大豆戸小学校に集合し、各ブロックの取組を発表しながら、話し合いを行う予定です。



各校の取組から、ブロックで何ができるか考える佐々木さんと眞尾さん

## プライベートゾーンを守ろう



夏休みに入る前に、低学年の児童に向けて、プライベートゾーンの話をしました。低学年の子どもたちに対する性被害は、性の認識がないために予防することができなかつたり、被害後すぐに相談できなかつたりする問題が指摘されています。ご家庭でも「自分の体を守る」という話について話してみる機会になればと思います。

**プライベートゾーンは…水着で隠れる所だけでなく、口や顔も含まれる  
見ない・見せない  
触らない・触らせない**

もし、誰かにプライベートゾーンを見られたり、触られそうになったときは、「嫌！」  
「やめて！」と強く言えるようにしましょう！

## SNS での子どものトラブルが増えています 保護者の方が、お子様のネット環境の確認を！

学校でも一人 1 台の iPad が配当され、授業を中心に活用する機会が増えています。それと共に、学校で皆が気持ちよく使用するために細かい事柄についても職員で共通理解する必要があると感じるようになりました。夏休みを迎えるにあたり、保護者の方もお子さんのスマホの使い方についても今一度ご確認ください。

### ○携帯やスマホは保護者のもの

まずゆるぎない絶対的なルールは、「**携帯は親のもの**」ということです。子どもたちは親の携帯を借りているのです。親の所有物なので、当然、親は「いつでも自分の携帯の内容を見る」ことができるし、「いつでも自分の携帯を返してもらう」ことができます。子どものプライバシーは？という話は、自分でルールやマナーを理解し、時間の管理ができるようになってからの話です。Instagram、Twitter、Facebook、TikTok、YouTube などは**13歳未満の利用を制限している**ことはご存じですか。保護者の管理下でない状態で 13 歳未満の子どもが利用することはできないのです。



### ○フィルタリングとペアレンタルコントロール機能

お子さんに携帯電話を持たせる場合には必ずフィルタリングが必要です。フィルタリングとは、利用できる機能を制限するものです。一部のサイトにアクセスできない「ブラックリスト方式」と、承認したサイトのみアクセスできる「ホワイトリスト方式」とがあります。契約した店舗で必ず説明してくれるので詳しく聞いてください。しかし、フィルタリングだけでは十分とは言えません。そこで、フィルタリングと一緒にペアレンタルコントロール機能を使うことを強くお勧めします。ペアレンタルコントロール機能とは、保護者の携帯から遠隔操作で、子どもの携帯の管理ができるというものです。例えば、何時から何時間、どんなアプリを利用しているかなどの使用状況を確認することができます。また、保護者の方で使用時間を設定したり、利用できるアプリを設定したりすることもできます。瞬時に使用を止めたりすることはもちろん、曜日によって設定状況を変えたりと、かなり細かく設定することができます。必要があれば、子どもの携帯から時間の延長やインストールしたいアプリを保護者の携帯へリクエストすることもできます。暗証番号で設定をするため、子どもの携帯から設定を変更することはできません。スマホの場合は設定の中のスクリーンタイムで、アンドロイドの場合はファミリーリンクなどのアプリを取り入れるなどの方法があります。いずれも難しい設定ではありませんので、設定をして、しっかりと管理をしましょう。

子どもを守る主体は保護者です。しかし、子どものほうが知識や操作方法の取得のスピードが速く、知らない間にトラブルに巻き込まれてしまうこともあります。子どものスマホ利用を含めて、子育てに悩んだ場合は一人で抱え込まないでください。保護者の方も様々な相談センターなどで相談することができます。トラブルが小さいうちに、専門の機関に相談をしてください。主な相談機関は以下のとおりです。

#### <保護者相談窓口>

警察相談専用電話・・・#9110（緊急性がある場合は110番）  
警察青少年相談保護センター・・・0120-457-867  
法務省・みんなの人権110番・・・0570-003-110  
こども家庭支援課相談窓口・・・540-2388

#### <子ども相談窓口>

24時間子供 SOS ダイヤル（文部科学省）  
0120-0-78310  
子どもの人権110番（法務省）  
0120-007-110

本日、港北警察署からのお知らせも配付しました。併せてお読みください。

インターネットはあくまでも繋がるための道具にすぎません。インターネットが普及して便利な世の中になってきましたが、信頼に基づく人間関係の繋がりがこそ大切にしていきたいものです。